

研究者紹介



草野 拓司 (くさの たくじ)

農林水産政策研究所研究員 国際領域

●専門分野

農業経済学, インドの農村経済

●略歴

富山県出身。明治大学大学院農学研究科博士後期課程修了。明治大学農学部専任助手、財団法人農政調査委員会専門調査員等を経て、平成24年4月より現職。博士（農学）。

●「現在取り組んでいる主な研究テーマ」

インドとアフリカの農業・農政に関する研究を行っています。インドとアフリカを合わせた人口は世界の総人口の約1/3にまで及んでおり、世界の食料需給に与える影響が大きいことから、その動向を分析しています。

●「具体的にどのような研究ですか？」

これまでインドでは、宗教的・文化的な要因により、人々は牛肉を食べることがほとんどありませんでした。しかしIT産業の急成長などにより経済成長が進み、外国の文化に触れる機会が増加しました。そのような中で、インドの人々が牛肉を食べようとするきっかけも増えました。実際インドの都市部では、牛肉を食べられるステーキ店が増加しています。人口12億人を超えるインドにおいて、もし多くの人々が牛肉を食べようになったら、飼料用穀物の激増が求められますし、そうなれば世界の穀物需給に与える影響は甚大です。このように、社会的

背景を考慮しながら、農業・農政に求められるものは何であるのかを明らかにするための研究を行っています。

●「研究の特色は？」

常に現場を意識した研究を行っています。現場では何が問題になっているのかを意識し、いま現場で起こっている実態を正確に理解することに努めています。そのため、フィールドワークは欠かせません。

●「今後の抱負」

インドとアフリカは、今後も急速な人口増加と経済成長が予想されています。それにより食料需要が急増し、食料消費構造の大きな変化が起こる可能性があります。そのような事態に対し、農業は、どのような政策により何をを目指すことになるのか、現場で起こっている実態を常に意識しながら、分析を進めます。そして、現実に即した、イキの良い研究成果を発信していきたいと考えています。

最近の刊行物

行政対応特別研究【地理的表示】研究資料

2012年6月 地理的表示の保護制度について
—EUの地理的表示保護制度と我が国への制度の導入— 研究報告書

農林水産政策研究

2012年7月	研究ノート	小泉達治	ブラジルのバイオディーゼル混合率引き上げが世界大豆・大豆製品需給に与える影響	
第19号	2012年7月	調査・資料	小泉達治	ブラジルにおけるサトウキビ農業生態学的ゾーニング制度：背景、内容、評価
2012年7月	調査・資料	澤内大輔	ニュージーランド排出量取引制度における農業分野の取組	